

## ピロリ菌と水

「ピロリ菌、可愛らしい名前ですが、胃が  
んの原因にもなる恐ろしい菌なのです。」生  
活習慣病についての保健の授業で、講師の先  
生が教えてくださいました。

家に帰り、家族にこの授業の話をする  
と、父と祖母が以前ピロリ菌に感染して  
とが分かりました。三人ともすぐに薬で除菌  
をしたそうですが、父はその時に、父の世代  
でピロリ菌に感染していることは珍しいと病  
院で言われたそうです。私は、なぜ父や祖父  
母がピロリ菌に感染していたのか、また、父  
の世代ではなぜ珍しいのかを疑問に思い、ま  
ずは祖母に話を聞いてみることにしました。  
祖父は、中学生の頃に上水道が整備される  
まで井戸水を飲んでいたので、ピロリ菌に感  
染していたのではないかと教えてくれました。  
そして、父がピロリ菌に感染していたのは祖

葛城市立白鳳中学校 三年

椿本 愛奈

父からの感染かもしれないとも話してくれま  
した。祖父の話から、ピロリ菌の原因は井戸  
水なのかと思い、祖母に話を聞いてみると、  
祖母の家は、上水道が整備されるまでは水道  
水ではなく、山の湧き水を家にひいて使用し  
ていたことが分かりました。祖父が言うよう  
に、ピロリ菌への感染と水は本当に関係があ  
るのか詳しく調べてみることにしました。  
まず、ピロリ菌は胃酸分泌が不十分な幼児  
期に感染することが多く、胃の表層を覆う粘  
液の中に住みつき、感染したまま放置すると、  
胃潰瘍や胃がんなどを引き起こす可能性があ  
り、衛生環境が悪いと感染率が高いことが分  
かりました。また、井戸水や山の湧き水等に  
ピロリ菌が存在していたことも、南米の研究  
者が研究結果を発表しています。そして、日  
本人のピロリ菌感染率は七〇歳以上が約八〇

パーセントと高い一方、四〇歳未満が約一〇パーセントと低くなっていることが分かりました。

次に、現在日本の水道水は浄水場で、沈殿、ろ過、消毒という三段階に浄水処理が行われているため、そのまま飲むことができます。そして塩素によって飲水に混ざる病原体やウイルスを殺菌することで、安心して飲める水となっています。

そして、日本の上水道の普及率は一九五〇年では約二六パーセントほどしかありませんでしたが、一九八〇年には九〇パーセントを超え、二〇〇四年時点では約九七パーセントとなっています。一九五〇年頃といえば七〇歳前後の祖父母が幼児期の頃にあたり、一九八〇年頃といえば四〇歳代の父母の幼児期にあたります。この二つの結果から、ピロリ菌の感染率と上水道の普及率には相関性があると考えられます。上水道の普及率が低かった時期に幼児期だった祖父母世代にピロリ菌の感染率が高く、上水道の普及率が高まった時期に幼児期だった父母世代にピロリ菌の感染率が低いことが分かりました。父がなぜピロ

リ菌に感染していたのかは分かりませんが、祖父母がピロリ菌に感染した理由は、井戸水や山の湧き水等によって感染したのだと思います。

現在、水道水をそのまま飲めるのは、日本やカナダ、北欧など、たったの十数か国に過ぎないそうです。世界では、二四億人も人が適切な衛生施設にアクセスできず、九億人の人々が安全な飲み水を利用できず、毎年二二一万人が死亡しています。

現在、日本は世界屈指の「水道先進国」と呼ばれており、水道普及率はもちろん、水質もトップクラスをほこります。ですが、それは世界的に当たり前な訳ではありません。世界中の誰もが安全な水を利用できるように、日本の高度な水道技術が世界中に広がっていくことを私は願っています。